

おうとうカイガラムシ類の発生時期について

令和8年6月18日(木)

新発田農業普及指導センター

- 園地の発生状況を確認し、適期防除を実施しましょう。
- 薬剤防除適期は、メス成虫が抱えた卵のうちから、**オレンジ色の幼虫がふ化**しているのが確認できる頃です。
- 同じ地域の中でも、**カイガラムシの種類（ふ化時期）**が違う可能性があるため、自園（ほ場ごと）ではどちらが発生しているか確認してください。

1 カイガラムシ類のふ化時期

確認

表1 第1世代ふ化盛期

| 対象害虫 | ウメシロカイガラムシ | クワシロカイガラムシ |
|------|-----------------|------------------|
| 確認日 | 5/7 ふ化確認 | 5/25 ふ化確認 |

・ふ化盛期：卵の50%以上がふ化した雌が全体の50%となったとき

実測

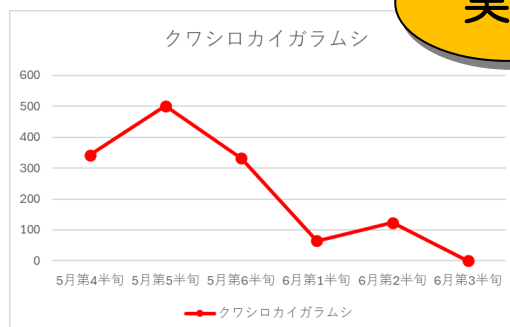
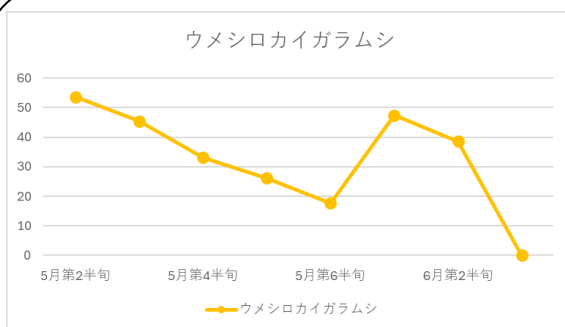


図1 ウメシロカイガラムシの捕獲数

図2 クワシロカイガラムシの捕獲数

調査結果を随時、更新します。

※昨年度、カイガラムシの種類を調査した結果、聖籠町14か所は「クワシロカイガラムシ」、新発田市五十公野地区は、3園地が「クワシロカイガラムシ」、6園地が「ウメシロカイガラムシ」と同定されました。

隣接ほ場でも種類が違う可能性があるため、自園でどちらが発生しているか、表2を参考にふ化時期を確認し、適期防除を心掛けましょう。

表2 カイガラムシ類ふ化時期

| 種類 | 発生回数 | 越冬形態 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 |
|----------------|------|------|----|----|----|----|----|-----|
| ウメシロ カイガラムシ | 3回 | 成虫 | ←→ | ←→ | ←→ | ←→ | ←→ | ←→ |
| クワシロ カイガラムシ | 2回 | 成虫 | ←→ | ←→ | ←→ | ←→ | | |

第1世代ふ化時期

←→ふ化時期

2 薬剤防除

- ① 殻に覆われた成虫や卵のうは薬液が付着しにくいいため、幼虫がふ化して殻の外に出ているのを確認した上で薬剤散布を行うことが重要です。
- ② 第一世代はふ化時期がそろうため、適期防除できれば高い効果が得られず。1番効果が高いのは「ふ化盛期から5日後まで」のタイミングです。
- ③ 園地環境や今後の気象状況により予測とずれる場合があるため、効果の高い防除をしたい場合は、必ず自園のふ化を確認しましょう。
- ④ 枝裏・枝先は薬剤がかかりにくいので、ムラのないよう丁寧に散布し薬剤の「付着率」を上げましょう。
- ⑤ **おうとう早生種がある場合は、収穫前日数に十分注意して散布してください。**

写真1 カイガラムシのふ化の様子

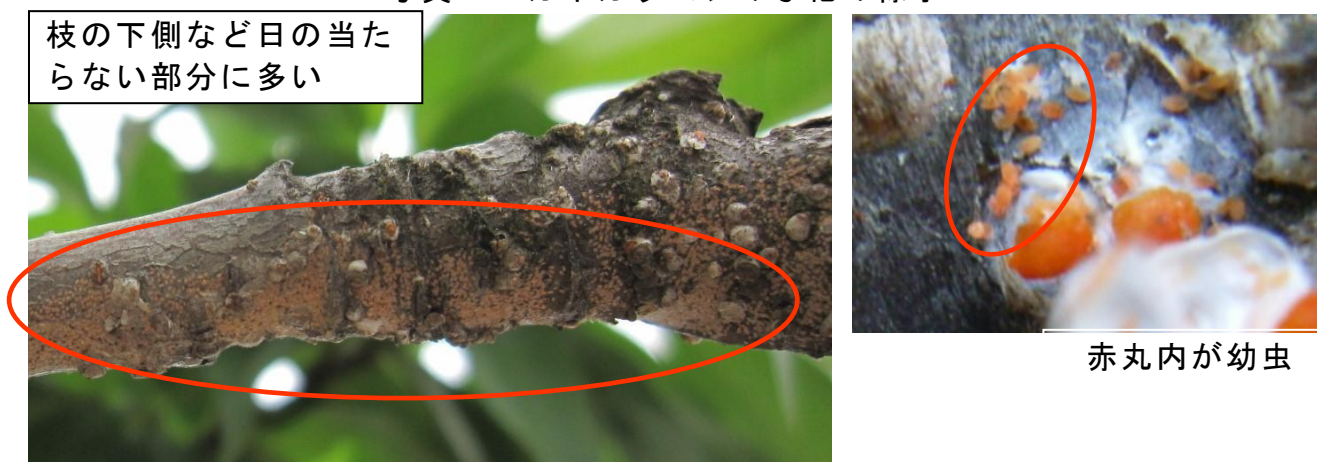
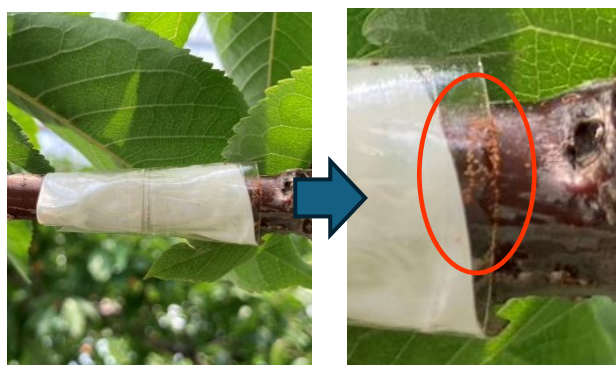


写真2 自園でトラップを設置する場合

予測日の2週間前に、カイガラムシの多い側枝複数か所に両面テープを巻く。
※白い絶縁テープやシーリング剤の上に巻くと目視しやすい。



5～7日間隔で観察し、発生が多くなってきたら薬剤防除適期
※粘着力が弱くなったら随時交換



幼虫を捕獲した両面テープトラップの様子